

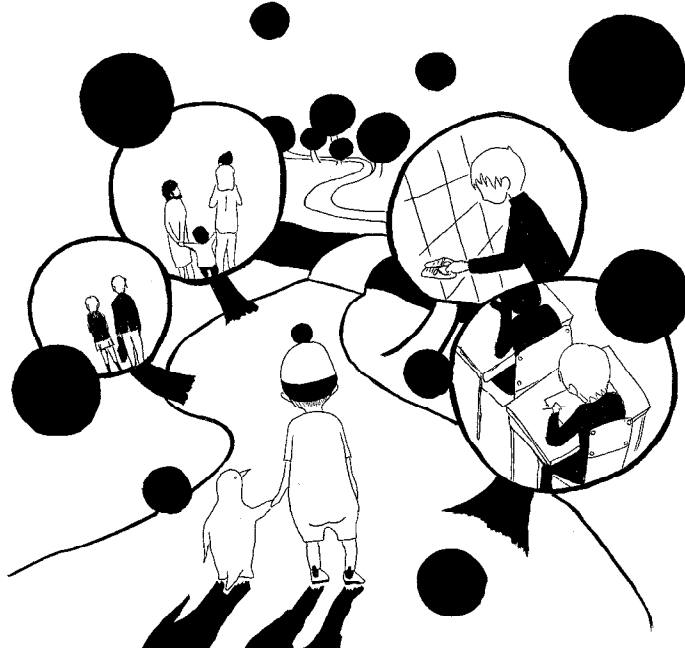


No. 80

発行人 神山 裕也  
発行所・事務局社団法人千葉県社会福祉士会  
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3  
千葉県社会福祉センター4階  
TEL043-238-2866  
FAX043-238-2867  
<http://www.cswchiba.com/>  
E-mail: [office@cswhiba.com](mailto:office@cswhiba.com)

※ 点と線はメール配信でも読めます！

## 特集 子どもの“生きる”を支える ～SOSを見逃さないために～



『大きくなったら、〇〇になりたいんだ。』

覚えていますか？自分が子どもの頃どんなことを想像していたか。

思い出してみませんか？先生のこと、友達のこと、心に残った人のこと・・・

そして今、子どもたちの言葉にならない声を、大人になった私たちが聞く番です。

私たちの手のひらで、子どもたちの希望を『すくう』ことはできないでしょうか。

### 特集 子どもの“生きる”を支える ～SOSを見逃さないために～

- 2 ①中学校の相談室より
- ②自殺は助けを求める魂の叫びです
- ③小学校の教室より
- ④SOSを見逃さない社会を取り戻そう
- ⑤信頼できる大人との接点の一つとして
- 7 Topics ～介護現場の社会福祉士って？～
- 8 コラム「震災から学ぶ」
- 9 地域集会 つながるネットワーク 千葉市緑区
- 10 社会福祉士の輪
- 11 三団体リレーコラム
- 12 社会福祉士支え合い制度」についてのご報告と御礼
- 13 私の一推し②・お悩み処「一休」
- 14 事務局だより

## 特集

# 子どももの“生きる”を支える SOSを見逃さないために

## 中学校の相談室より スクールカウンセラー としての立場から

スクールカウンセラー  
児島笑子

「こんにちは！」 校内に子どもたちの元気な挨拶が響きます。廊下では、話題のテレビ番組や好きな異性の話をしたり、ちよつかいをしかけて追いかけていたり、私が過ごした中学時代と変わらないような姿が見られます。でも、当時と少し違うのは、お互いの思いが食い違っていて、気づかず『もうその辺にしておこう』という加減が分かっていない、という場面に出会うことが多いことです。『コミュニケーションの仕方が未熟』『相手との距離感が適切にとれない』『関わり方の未修得』などで、トラブルを起こす子ども

もたちがたくさんいると感じます。本来、ちびっこギャングといわれる小学三年生の頃に、仲間とのたくさん遊びを通して『人の距離感』を体得するものですが、ゲームなどの媒体でやりとりをしている今の子どもたちの多くは、これらを未修得のままに感じます。

また、家族形態も変化し、核家族から片親家庭も多くなりました。小さい家族単位の中では、コミュニケーションの量は当然減ります。直接気持ちを伝えあう方法ではなく、携帯電話などの手段を使うことが多い子どもたちにとって、『相手の立場を考えながら、自分はどうしたらよいか、自分の思いはどのように伝えたいか』という視点に立ったコミュニケーションを自然に身につけることは、難しい環境になっているのかもしれない。

このような子どもたちは『トラブルを起こしてしまう』ことが多い

ですが、本当は『どのようにしたらいいかわからない』のだということを知り、周りで支える役割を担う大人たちが理解し、子どもたちの真意を組みながら、適切な方法を伝えていくことが大切だと感じます。

面接が入っていない昼休みや放課後に開放している相談室には、定期的に顔を出してくれる子どもたちがいまいます。思春期、反抗期の子どもたちが、私のようなおばさん（母親像とだぶると思うのですが）と冗談を言い、ソファアに「なんか、ほっとする」と横になります。相談をすることもなく、一緒に過ごす時間を求めるにきます。コミュニケーションが未熟、それ以前にコミュニケーション不足、思春期の葛藤の中でも、またまだ、大人とのコミュニケーションを要求したい子どもたちがたくさんいると感じます。この求めている『ちょっと安心できる場』と一緒にいることを、私はとても大切にしています。

ご家族に子育てへの力をもう少し要求したい気持ちもあります。しかし、多忙でストレスが大きい現代

社会の中で、さらに要求をしていくことは、酷なことでもあります。それを要求することで、子どもたちの生活に悪循環をもたらすこともあります。面接では、そういったご家族へも子どもたちへも、大変な社会の中で懸命に生活していることを労い、エンパワメントし、気づきを仰ぎながら、出来る小さなことを一緒に探ります。そして、ご家族だけでなく、子どもとその取り巻く環境をアセスメントし、周りで資源となつて支えてくださる方々と連携し、その方々へもエンパワメントしていきます。それが私の立場でできることと考え、みなさんの力をお借りしながら、子どもたちへの支援にあたっていききたいと思つています。



# 自殺は助けを求める 魂の叫びです。

精神保健福祉士

榎場 雅子

この世に生を受けて、成長発達の途上にある、まだ十分に自己を確立していない子どもが、突然に自殺を遂げてしまうことほどショッキングな出来事はありません。ましてや、それが友人たちから受けたいじめを苦にしたものなら、そのショックの大きさは計り知れません。

ところが、この痛ましい出来事に対して、更なる問題提起をするのかのように、あるいは刺激性反応とも思えるような形で、自殺を遂げる子どもがいます。マスコミにもとり上げられ、★社会病理学的問題にもなっています。

さて、小学校の高学年、中学生、高校生を対象に「自殺することを考えたことがありますか」と尋ねたアンケートによると、「ふと考える」「時々考える」を含め、三人に一人

が「はい」と答えています。「子どもが自殺を考えること」は決してめずらしいことではないことを示唆しています。

更に子どもの自殺の背景についての調査では、小学校高学年では家庭や学校での問題が過半数を占め、中学生、高校生になると、これに異性関係や病苦が加わり、中でも、うつ病や統合失調症などの精神疾患が影響しているものも見られると報告されています。これは、年少の子どもほど、環境の圧力に対して直接的な反応を示すことを意味します。

アメリカの精神科医メニンガーは、自殺行為には①殺したい ②殺されたい ③死にたい という三つの願望が潜んでいると述べたうえで、つぎのように分析しています。

青年期には①が強く、対人関係で敵意や憎しみを抱きやすいが、その相手は家族、教師、友人や恋人など本人にとって身近な人です。敵意を表面化できず、愛と憎しみの狭間で敵意を抱くことに罪悪感を覚える

と、自分を責め罰せられたい思いへと変化します。つまり①の殺したい願望が無意識のうちに②の殺されたい願望に急転化するのです。そのため自殺行為には他者へのアピールが含まれていて、絶望的な思いや恨み、怒りの感情が大人の心に鋭く突き刺さってきます。

これに対して年少者の場合は本人をとりまく環境そのものが苛酷で、そこからの出口がみつからず、八方ふさがりの中で、絶望的心境で②の殺されたい願望に到ります。しかし反面では、助けて欲しい、助けられたい、という願いが強くあります。遺書がメモ書きだったり遺されていないこともあって、衝動的行為と捉えられてしまうことがありますが、それはまちがいである、と指摘しています。

いずれにしても、子どもの自殺は、家族や教師、周囲の大人たち、友だちなど、本人をとりまくすべての人に疑問を投げかけています。時には、救いの手が差し伸べられていれば防げたのではなかったかと、悔やま

れることもあります。孤独が自殺へと追い込んでしまうのではないかと考えます。親や教師、周りの大人たち、更には同年代の友人との豊かな人間関係こそが、子どもの心の屈折や、救いのない状態を緩和してくれます。特にこの時期の子どもたちにとって、大人より仲間の方が大切な意味を持っていることを忘れてはなりません。

最後に、孤独に陥りやすい子どもに対し、周囲の人びとによるさりげない毎日の声かけが、いかに大切で効果的かというエピソードを紹介します。

小学校五年生のA君は、関西のある市で生れ育ったのですが、家庭の事情で千葉県内の叔父に預けられ、転校を余儀なくされました。もともと内向的なA君は、叔父宅にも学校



にも馴染むことができず、緘黙(かんもく)状態となり、第二型緘黙(社会化意欲薄弱型)と診断されました。沈黙を守ることは、必ずしも周囲

との交流を拒否することを意味するものではありません。むしろ孤独を感じている場合が多いのです。このことを関係者の共通理解としました。A君の内面のみに捉われず、オアシスを合言葉に「おはよう」「ありがとう」と、あいさつから始めることで、自然とさりげない言葉かけ(イコール人間関係)が身につくように配慮しました。

夏休みも近い七月中旬のある日、自宅が近いA君とB君は一緒に帰宅の途につきました。その道すがら、A君は突然に「僕ね、ずっと死にたいと思っていたけど、この頃は全然そんなこと思わなくなったよ。だってみんな優しいものね」と言うと、後はまた黙ったままでした。B君は本当にびっくりしましたが、「みんな優しい」と言われたことで思わず「ありがとう」と言い返しました。ふたりは、そのまま何も言わずに手

をつないで帰りました。B君は、その時のことを、何となくほんわかしたのを感じたと述懐(じゅっかい)しています。

こんな大切なことを、先生にも家族にも言わずに、学校の帰り道で友だちだけに打ち明けたことがいささかショックではありましたが、それ以上に大きな感動でした。

問題を持つ年少の子どもの相談にあたるのは気の重い骨の折れることですが、「おはよう」を始めとする毎日の声かけならば、気軽に続けることができます。それが「私はいつもあなたのことを気に懸けている」というメッセージとなり、やがては子どもが心の問題を話す機会となる可能性をも含んでいることを教えられたのでした。

#### ★社会病理学

犯罪・非行・自殺・離婚・家出・失業・スラム・貧困などの問題を社会の病氣ととらえ、これらの現象を社会学的方法を用いて研究する学問。

## 小学校の教室より 教職員 としての立場から

柏市立大津ヶ丘第一小学校

小林 美智子

「先生―。」

廊下を歩いていると、後ろから元気な声がします。振り返りながら、

「何？どうしたの？」

と声をかけると

「なんでもない。」

と言いながら笑顔になります。この何気ない日常を、今、私は大切にしています。



いじめの芽はどこにでもあり、気づかずにいると、本当のいじめになってしまいます。私たち教員が心がけるべきことの一つは「いじめの芽に早く気づき、早いうちにその芽を摘み取る」ことだと考えています。

かつて担任した学級でも、何度かいじめ問題がありました。ちよっと見た目には「いじ悪」「ふざけ」です。が、それを放っておくと、気づいた時には問題化し、いじめに発展してしまいがちです。私は「このぐらいいいだろう。」と思っている彼らの心の中に入り込み、その行為を振り返らせ、その行為を受けている相手の気持ちを考えさせることを大事にしています。叱るだけでは、また同じことのくり返しです。どうすればよいかを考えさせ、変わろうとする気持ちを引き出し、一歩前に踏み出す手助けをします。

心がけていることの二つ目は「子どもの居場所を作る」ことです。荒れている子どもを見ると、必ずと言っていいほど居場所がありません。学級の係活動でもいいし部活動でもいい、掃除や手伝いでもいい、必

要とされているという実感を抱かせるのです。少しでも変わってきた時を見逃さずに認めるのです。

以前担任した学級にA君という子どもがいました。授業中は落ち着かず、休み時間は廊下を走る。掃除はやりたがらず、悪ふざけをする。何度注意しても変わらなかつたのに、ある日、私の落とした荷物を拾い、届けてくれたのです。その時の「ありがとう！」の言葉が、たぶんA君の心に響いたのでしよう。それからたびたび手伝いをし、徐々に掃除をするようになりました。と同時に、悪ふざけが減っていったのです。「自分の行為を、人が喜んでくれる」ことが、A君の心を落ち着かせ変容させていったのだと思います。いじめの子にもいじめを受けている子にも「いつも君を見ているよ。」というメッセージを伝え続けることは、正直に言って大変なエネルギーを必要とします。が、それでも、常に見守っていることを伝え続け、子どもたちの「心のよりどころ」を作っていくことが大切なことだと実感し、実践する日々です。

## SOSを見逃さない 社会を取り戻そう

柏市社会福祉協議会

社会福祉士 山口利史

サザエさんに出てくる子どもの生活の場は、家、学校だけではありません。裏のおじいちゃんやお菓子をおじさんから叱られたり、地域の大人たちが子どもを育てています。

テレビを見ていると、ほつと癒されますが、あのような近所づきあいは少なくなっています。

今、地域で子どもたちに声をかけてくれる大人がどれだけいるか考えてみてください。

最近、登下校時に旗振りをしているシニアをみかけます。学校と地域で連携して「登下校の安全を支えよう」という動きです。無表情な子どもが多くなっている中、毎朝シニアが元気に「おはよう」と声かけをしています。あいさつの大切さについて改めて取り組むことで、そのことを学ぶことから始めなくてはいけないのが現状です。

ゲートキーパーという言葉聞いたことがありますか？

ゲートキーパーの役割は、気づき（家族や仲間の変化に気づいて声をかける）、傾聴、つなぎ（早めに専門家に相談するように促す）、見守り（温かく寄り添いながら、じっくりと見守る）というものです。

「こんな当たり前のことを、国がわざわざPRするの？」と違和感を持つ人もいるかもしれません。それが自然にできなくなっている社会になっているのです。

そこで、求められる社会福祉士の役割が二つあります。

一つ目は、キャッチされづらくなつたSOSを見逃さないために、アンテナをしっかりとることで。先日、職員研修で、ゲートキーパーの基本を学び、ロールプレイを行いました。相談対応している時、私自身の心に「死ぬ」「死にたい」と言っている人、早く話を終わらせて、早く次の専門機関へつなぎたいという思いが出てきました。これは、対応者の一般的な傾向です。その思いは態度として表出され、相手に見捨てられたと受け取られました。社会

福祉士は、児童相談所、市役所の家庭児童相談室、教育委員会教育研究所、いろんな場面で子どものSOSをキャッチできます。我々が最後の砦になるかもしれません。SOSを見逃さないために、ぶれずに、相談援助の基本を保つことが大切です。

二つ目は、子どもの周りに大人の輪を作ってあげることです。

子どもから相談を受けた時に我々はその重さから、支援の方向性も抱え込みがちになります。しかし、子どもにとって必要な大人は、相談援助職だけではありません。地域であいさつを交わせる人が増えることがすくいになることもあります。

出合いの場はいろいろあります。地域にはスポーツや趣味の場もありますし、ボランティア活動に参加することで社会性が育つこともあります。地域によっては、夏休みの





自由研究を手伝ってくれる講座などもあります。社会福祉協議会や、地域の民生児童委員さんと協力して、学校、家庭以外の居場所に子どもをつなぐこともできるかもしれません。

人と人の関係が希薄になっていくことで、孤立死や、大人の自殺、そして子どもまで、生きるということが難しくなっています。

社会福祉士の相談援助職としての専門性、ネットワークを発揮してそこからこぼれおちてしまいそうな人たちを、支えられる社会にしていきたいと思います。

## 信頼できる大人との 接点の1つとして

司法書士 伊見 真希

司法書士の業務として、直接「子ども」をクライアントとするものは少ない。しかしながら、日々の業務の中で「かわりを持つ依頼者の家族の構成員としての子ども」「法制度の受益者たる社会の構成員としての子ども」という視点から、司法

書士会内でも子どもをめぐる問題への関心は高い。その中で、筆者がかかわっている業務や活動を通して感じることを述べたい。

### 未成年後見

各司法書士会及びリーガルサポートの各支部には、家庭裁判所等から未成年後見人の推薦依頼が寄せられている。

その多くが親との死別に伴う財産の管理、処分(負債の整理を含む)を必要とするものであるが、何らかの事情で「子ども期に親との関係を絶たれた子ども」とかわる未成年後見人の役割は、当然にこれに留まらない。

実際に、学習や余暇の時間を共有し心の交流を深めながら自立に向けた支援を行っている会員、高額な買い物をしたがる成年間近の本人に対し、その意思に反して制約すべきかを葛藤する会員、児童福祉施設の職員から「親代わりに」と要求され、子どもとの距離の置き方に悩んでいる会員、成人後も交流を続け生活上の相談に応じている会員など、子どもの保護と自立、自律の狭間で揺れ動きながら実践をしている。

今後も就任依頼は増えるものと

思われるが、執務をバックアップする体制の構築や、報酬の問題(資産が少なく報酬が見込めないケースだけでなく、子どもの将来の生活資金から報酬を受領することそのものに対して抵抗感がある)などについて、組織的な対応ができるか、検討を始めたところである。

### 法教育と社会的養護のもと育つ子どもたちへの支援

司法書士会では、全国の高等学校に消費者教育、法教育の講師派遣を行っている。また、任意団体や有志の活動ではあるが、児童養護施設等での法律教室活動や、退所者の自グループの側面支援などにもかかわっている。

社会に出た後にトラブルを回避する方法や、トラブルに巻き込まれた際の対処法など、必要な知識を伝えることがこれらの活動の主な目的であるが、これにとどまらず学校や施設内のルール作りへの参画や「大人モデル」としての存在の提示など、いろいろな広がりを見せている。子どもや若者、とりわけ家族との関係が途絶え、または関係に困難を抱えながら生きている当事者にとって、親、教員、職員という関係

以外の大人である法律専門家が、積極的に関与を持つこと自体に意義があると感じている。

以上、司法書士としての関わりを簡単に紹介したが、無論、これらは子どもたちの育ちや学びにとつて、極めて限られた役割と機能である。

しかし、限定的であるからこそ「社会全体で子どもを育む」という視点に立ち、司法書士のかかわりによって、信頼できる大人との接点の総量が少しでも増え、これにより子どもが自身を尊く思う気持ちが増えるようになれば、との思いで取り組みを続けている。

そして、子どもたちの命にかかわる出来事が報じられる今、これらの活動に取り組む司法書士は、将来の相談相手候補としてだけでなく、現在進行形のSOSをキャッチしうる立場にもあることも、十分に、自覚しなくてはならないと感じている。



## TOPICS 介護現場の社会福祉士って？

通所介護『なないろ』

生活相談員 大橋 美和

私は昔ながらの三世代同居の家で育ちました。両親は共働きでしたが寂しさを感じることはなく、いつでも祖父母が見守り慈しんでくれました。祖父母のもとにはご近所のお友達がよく訪ねて来ました。幼い頃の私の周りには優しく、温かいお年寄りがたくさんおり、身近な存在でした。お年寄りは元氣そうに見えても膝に手をついて「よっこいしょ」と言って立ち上がることや、段差を上がる時に辛そうな顔をするのに気付き、大変そうだから手伝ってあげたいと感じるようになりました。大きくなったらお年寄りを支える仕事をしよう！と思って早二〇年、介護福祉士として福祉の門を叩き、現在は社会福祉士としてデイサービ

スの生活相談員をしています。

デイサービスの生活相談員の業務の中心は、「相談・調整役」です。ご利用者の生活には様々な人や物、サービスが関係しており、所属事業所内でも医療職、介護職、事務職等がチームとして動いています。それぞれとの連携を図り、より良いサービスを提供するための潤滑油が生活相談員の役割だと感じています。

現場ではご利用者の食事や排泄といった身体介助や送迎、手作業、レクリエーション等の介助・補助もします。一日の中では直接的な相談としての業務よりも介護業務をしている時間の割合が多くなっています。「生活相談員」として就いたのに実際には「介護職」だ。その待遇に不満を感じています。そんな声を聞いたことがあります。確かに私の現状は「介護職

と変わりないではないか」と思えるかもしれませんが、生活相談員が現場で直に見て感じることで、より実践に即した意見を持つるという利点があると思います。ご利用者と肌が触れ合う中で生まれる信頼関係もあるでしょう。ケアに関わるといことはご利用者との時間を共有していることにもなり、それは言語でのコミュニケーションと同様、若しくはそれ以上のコミュニケーション手段でもあると思うのです。ソーシャルワークの基本には対象者との信頼関係の構築がありますが、長期間に渡って定期的に時間を共有させて頂きながら関わりを持つるデイサービスでのソーシャルワークにやりがいを感じます。その一方で、関わりが長くなりご利用者について知ることが多くなるにつれ、フラットな目線で見えていくことが疎かになつてしまうのではないかと危惧もあります。職務を全うするためには、常に初心に立ち戻ることを心掛けなければならないと思います。

柏市内のデイサービスだけでも約七〇の事業所があり、其々に生活相談員がいます。他職種、他業種、他事業所の連携の必要性があるデイサービスは社会福祉士の専門性を発揮しやすい分野だと思います。しかし、相談員として社会福祉士が従事している事業所はまだ少ないと感じています。介護の現場で生活相談員として働く社会福祉士は、どのように日々を過ごし、悩み、乗り越えているのでしょうか？共有したことを糧にできるような情報交換を試みていと感じています。



# 東日本大震災 から学ぶ

「いわき、石巻、被災地ボランティアに参加して」

成年後見・介護支援事務所

田村俊道

「復興」ってなんですか？

「復興支援って皆さん言うけれど、どうなったら復興なんですか？」

最初の訪問地、いわき市の雇用促進住宅集会所で聞いた言葉だ。

今でもずっと耳から離れない。

千葉県社会福祉士会鈴木木災害対策委員長の呼びかけにより七月四日、五日の二日間、「被災地ボランティアツアー」に参加した。

参加メンバーは私を含めた五名の会員とご家族一名。さらに「チーム浦安」の多才なメンバー五名と「ハートオルプロジェクト」の西川さんご夫妻が合流する形となった。

最初の訪問地は、いわき市・内郷の被災者の方が仮入居している雇用促進住宅の集会所。

着ぐるみを着て楽器を持ったメンバーの演奏に合わせて、残りのメンバーは歌ったり踊ったり。さながらブルーメンの音楽隊だ。会場が一気に盛り上がる。他にも体や頭を使ったゲームに健康体操と、全員参加型のプログラムで時間があつという間に過ぎていった。

中休みの時、被災者の方たちと話しをしていて、今日集まってくれた方たちは地震・津波の被災者と原発による強制避難者の方たちだと分かった。ここは「福島県いわき市」、当たり前のことなのに正直、言われるまで気がつかなかった。「家があつても帰れない・・・」、出てくる言葉・思いが、みんな違う。

午後からは場所を移して、知的障害者施設「東洋学園」がまるごと避難している「いわき青年の家」の体育館で臨機応変のパフォーマンス。やつぱり着ぐるみパワーは絶大の盛り上がりを見せる。

東洋学園は千葉県の鴨川にも一時分散避難していて、今いる場所が三回目の避難場所、今後仮設住宅として作られる施設に移動するためここにいられるのもあと数カ月とのこと。

入所者の精神的不安はもとより、入所者とともに移動する職員とその家族の問題も深刻。元々の学園は山の上であり、建物被害もあるが、放射能の除染は不可能なのでもう戻ることはいかないそうだ。

夜は、いわき市・平の古刹、曹洞宗長源寺の庫裡をお借りして、各自が持つていった寝袋にくるまって熟睡。

翌早朝、宮城県石巻・牡鹿半島を目指して出発。

石巻のインターチェンジを下りて海岸線に向かうとテレビでよく見る光景が広がる。仮置き場に山積みになられたがれき、取り壊す印が付きながら

放置されているたくさん建物の、まだまだ復旧には程遠いことを実感する。

工事中の山道を抜け昼過ぎにやつと目的の地、牡鹿半島に着く。ここでボランティア活動を続ける。「Picari支援プロジェクト」の遠藤代表から「役所には金がないので、まだまだボランティアの力が必要。復興予算はどこにいったんだろう・・・」など、現地では聞けない話を伺い、女川から雄勝町水浜の仮設住宅にたどり着く。

約束の時間を大幅に遅れたにもかかわらず、集会所では温かく迎えてくれた。この集落は震災直後、連絡も途絶え一時は全滅と報じられていたそう。生々しい当時の話を笑顔で話

す。「生きてたさ、風呂も入ってたよ膝までだけど。皆んな入りたから汚さなように膝までさ！ドラム缶だよ」「雪降ってきて！屋根の下で立って寝てたさ。場所無いもの！」「生きてたさ！」

集会所の壁には、手伝ってくれたボランティアの人たちからのたくさん手紙やメッセージが貼られている。「ありがたいね、ボランティアの人たちみんなに助けられてるよ」

帰ったら西川さんよろしく伝えてくれと何度も言われた。

「ハートオルプロジェクト」の西川さんは、今もなお支援物資を集めて被災者の方たちに届け続けている。

う穏やかな民謡が流れ、のどかな日本の風景が広がっていた。

たった二日間の、しかも駆け足の被災地ボランティアツアーだったけれど、たくさんさんのものを頂いた。

被災地にいる人たちにとって、手伝いに来てくれる人がどれだけ大事な存在だったか、理屈はいらない、何もいらない、ただ来てくれて出来ることをする、それだけで良い。

社会福祉士だからなににの手伝いをする、そんなことは現地の人が必要に応じて考えることで、任せれば良い。

今回もたくさんさんの感謝の言葉をいただいた。

「来てくれてありがとう」「忘れないでくれてありがとう」

「浦安の人たちには本当にお世話になった」「西川さんには今でもずっとお世話になつている」「ありがとう、ありがとう・・・」

以上





# 地域集会 つながるネットワーク

千葉市緑区

千葉市緑区地域集会について

特別養護老人ホーム けやき園

奥野 宏史

昨年からは、千葉市緑区に在住・在勤の社会福祉士の方を中心に、集まって何かできることはないかという気楽な感覚で集会を行ってきました。

きっかけは、近隣の地域包括支援センターで主任介護支援専門員の仕事をされている社会福祉士の方との会話の中で、「この資格を持つソーシャルワーカーの仕事をしている人は色々な職場におられ、様々な対象者の方の援助をしています、自分の範囲外の社会福祉はあまりわからないのでは」という話があったことです。

そこで、様々な職場で働いている社会福祉士たちが集まれば、児童・母子・障害・高齢・知的・精神など

色々な分野の交流が促進され、地域社会に対して福祉的な関わりをより細かくアプローチできるのでと考えました。

これまで平成二三年九月から計五回の地域集會行ったところ、集まった方々は概ね八人〜十二人程度で、そのうち毎回続けて出席される方は、私も含め五人といったところ。社会福祉士の資格を所持して仕事をされている方は高齢者福祉の方が多いのですが、時々障害や児童関係の方も来られ仕事内容を話し合ったり、今後資格を取得する為に勉強中の方も参加されることで、自分の知らない社会福祉の現場を学ぶ良い機会となつています。集會のテーマについては、特に定義が無く興味のあることなどをその場で話し合ったりしてきました。

集會の具体的な内容は、初回と二回目では様々な分野で仕事をしている社会福祉士間の交流（情報交換）を行うために、とにかくまず集まってみようと思ってみました。その後平成二四年度に介護保険法が改正

になった事と、集まっている社会福祉士に高齢者介護分野で仕事をされている方が多かった等の理由から介護保険法の改正について情報交換を行いました。

そして六月の集會では、訪問診療とセルフネグレクトについて勉強をしました。セルフネグレクトについては、客観的に援助が必要であり、地域の人たちが援助を受けることを薦めても、本人の意志でそれを拒否しているケースに対し、私たちはどこまで、どの程度の介入をしていくべきなのか、またその方法はどのようなものがあるか意見交換などを行いました。

八月の集會は、社会福祉協議会の社会福祉士の方に、社協の現状や活動内容などの説明をいただき地域と地域住民の方々とのこれまでの福祉的な関わりを教えてもらいました。

私がこれまでの集會を通じて感じたことは、社会福祉士として様々な悩みや相談に総合的に関わり、必要な専門家や専門機関への橋渡し

ができれば良いと思っけていても、社会福祉士がいる相談機関などはそれぞれ分野別に分かれていている事が多く、来所者の相談事に答える事で精一杯な現状があるのかなということ。です。

これからは、来所者の悩みを職場の肩書きや相談機関の看板などとは関係なくお話を聴いて、私の専門分野以外の相談内容は、それぞれの適切な機関に「橋渡し」をしたいと思ひます。



## 社会福祉士の輪

II 地域のためにできること II

森脇 小美子

私は平成十四年に五八歳で国家試験を受け会員となり、現在は権利擁護センター「ばあとなあ千葉」の登録員として成年後見人等の仕事を主にしています。当会の独立型社会福祉士委員会に所属しており、市原地区の代議員も受任しています。

古い話で恐縮ですが、昭和三七年当時としては社会福祉学科を置いている大学は非常に少ない中、地方から東京に出てきて某女子大学の文学部(現人間社会学部)社会福祉学科に入学。福祉の運動論の概念や「福祉文化論」を唱え、極最近逝去された一番ヶ瀬康子先生の最初の授業で、「福祉に携わる者は『あついで心と冷たい頭で』関わらねばならない。」と言われました。この一見何の変哲もないフレーズは今なお、私の福祉活動や対人援助を行う際の原点となっています。

卒業後、社会福祉法人日本肢体不自由児協会で『手足の不自由な子どもたち』という月刊全国紙の編集発行を主に担当、指導係として様々な障害者に関する療育書や親の会に関する編集の仕事をしておりました。

その後、転勤族の夫の八回にのぼる転居のため、育児の合間、各地でボランティア活動をした後、関東に戻って以来、卒業した大学の故小島蓉子教授(当時障害者福祉学リハビリテーション論に関して著名な先生)の秘書をさせていただいたり、NHK学園(通信制)の高等学校専攻科の添削講師やホームヘルパー養成校の講師をしたり、特別養護老人ホームの生活指導員を経験いたしました。

その後家庭に一旦入ったものの福祉の虫が又むくむくと蘇り、この年齢でできることは終の棲家であるこの地域の福祉に少しでも貢献すること。それが私のこれからの使命と考えました。そのためには専門性をさらに磨き、新しい時代の福祉

を勉強し直そうと、社会福祉士国家試験を受けることにしました。

国家資格を取得して即、当社会福祉士の会の会員となり、部会や委員会や各種研修会や勉強会や地域集会に参加し、刺激し合える仲間との出会いを得たことは何よりも私にとって大きな支えとなっています。MLなどでの異世代の若者たちの情報も新鮮です。

私の住んでいる市原市ちはら台は平成元年に造成された新興住宅地で、サラリーマン世帯中心の子育て世代の多い地区です。平成八年に神奈川県から終の棲家として転入し、地縁がないまま図らずも民生・児童委員協議会地区会長となり、千葉県地域福祉支援計画のもとで『小地域福祉ネットワーク』を立ち上げファシリテーターとして関わりました。住民助け合いシステム(無償個別直接支援)をスタートし、子育て支援として常設の親子ふれあい交流広場を小学校の空き教室に開設し、喜ばれています。

この度おがましくも地域で独

立型社会福祉士事務所を立ち上げたばかりですが、成年後見業務だけでなく、気軽な地域密着型の福祉相談窓口として、情報提供や社会資源への橋渡し役を、『あついで心と冷たい頭』で頑張つてまいりたいと考えております。会員の皆様のご支援を宜しくお願い致します。



## 三団体リレーコラム

千葉県精神保健福祉士協会

松田裕児

千葉県ソーシャルワーカー三団体合同研修会には、これまで裏方として四回参加させていただきまし

た。当日まで数回行われる打合せの場は、そこに身を置いていただけでも貴重な学びとなります。それが研修委員の特権では申し訳がないので、打合せで交わされる問題提起や議論等が当日にも活かせるよう皆で取り組んでいるところです。

合同研修会の参加者は、いずれかの団体に所属していることが前提で、各団体とも研修会を豊富に開催されている訳ですが、私自身の当研修に対する目的の一つは、日頃の実践分野とは異なる方々との出会いにあります。そこでは必然とその時の自分の立ち位置の振り返りをしたり、今後の方向性などを考える機会も与えられますので大切な場となっています。

今年七月に実施されたソーシャルワーカー（以下、「SW」という。）デイも同様に、各団体の方が同じテ

ーマに対してどのような視点に立たれ実践されているのかを聞くことができ有意義でした。併せてシンポジウムではSWとしての共通基盤や資格種別による特徴などの確認作業もできたと思いますので充足感が得られました。また、一般市民の参加は少なかつたようですが、一般公開という面でも意義深い企画を周知できる面でも意義深い企画だったと思います。

しかし、この周知活動は難しく、私が所属する千葉県精神保健福祉士協会の今年度の活動目標も「もつと知ってもらおうPSW」と掲げていますが、地道な取り組みが必要だと思えます。例え、SWがどんなに社会福祉ニーズを持たれた方や社会に対して有益であったとしても、資源として使われ続けなければ洗練されることはなく、そもそも存在自体が世間に知られていなければ元も子もない為、積極的なアピールが必要だと思えます。

私はこのSWに対する認知度について考える時、自分自身の失敗経験を思い出します。それは、私が福祉の仕事をはじめた十年前のことです。当時、私は相手に応じて自分を名乗る時には「相談員」と「ソーシ

ヤルワーカー」とを使い分けていたのですが、後者を使うことが殆どでした。その理由は、相談員と名乗ることによって自分の対応力を超えた相談をされてしまう感覚があり、自分の未熟さが露呈されることを避けるためでした。そこで「ソーシヤルワーカーの・・・」と自己紹介をしていたのですが、ある時「SWって何者だ。偉いのか。どこの学校を出ているんだ。」と病室中に響きわたる程の物凄い剣幕で問われ、興奮を助長させてしまいました。その後、「ソーシヤルワーカー」と名乗ることを躊躇するようになりました。それから約五年後のことでしたが、外国の方に自分のことを通訳者が「JAPANESE SW」と紹介された時のことも印象的でした。欧米のSWの経歴や職務等を教わると、一介の事業所職員である自分が欧米のSWと同等に扱われていくことに困惑を伴う違和感を感じました。その時は再び「ソーシヤルワーカー」とも名乗っていた頃で、SWという言葉が横文字のために使いづらいう訳ではなく、SWという責任の重みを痛感したことで、SWという名称を名乗ることに再び壁を感じさせる出来事でした。それでもSWと自信を持って言い切れない自分も

いますが「社会」という部分に拘り、SWという言葉を知りたい思いがあります。

本来、社会正義や平和等について強く主張しなくても人々が排除されない社会であればSWが注目される必要はない訳ですから、SWが活躍する社会とは、その分困難さを抱えた人が多いということになると思います。今後も残念ながら我々を利用していただく世相が臨んでいると思料しますので、SWという存在を周知していくことは増々必要なことだと思います。最近では確かにSWという言葉がマスコミやテレビドラマ等でも散見し時代が変わったのかと感じさせる時もあります。しかし、過剰な演出や起りえない設定となっている実情を見ますと、SWという名称を周知すると同時に我々の役割についても社会から正しい認識をされるように努めなければならぬと思います。その為には、名称に恥じないような実力を身に付け、我々を利用していただき、SWはその時々々の相手や社会に価値ある存在であると認められることが必要だと思えます。

最後に、貴機関紙に折角の機会をいただきましたので、今後の三団体活動に期待することと最近再考し

ていることについて触れたいと思います。それは、SWはそれぞれの勤務先に所属する被用者の身ですが、その役割を發揮するためにはやはり連携が鍵だということ。支援者同士が自らの所属機関の枠を超えた協働の先にこそ、多様なニーズに対峙していくための新たな支援の仕組みや実践力が生まれるのではないかと考えています。そこでSWとしての役割を貫いていく過程には、一定の独立性が担保されている必要があると思います。我が国ではこの辺りのことが脆弱だと思えますので各職能団体が果たす役割は大きいと思っています。更に当三団体の活動のように職能団体同士が力を併せていくことの可能性は多大だと信じておりますので、引き続きご高配を賜りますようお願い致します。



## 「社会福祉士ささえあい制度」についてのご報告と御礼

社会福祉士として公益的な活動や会の活動に無償か低廉な報酬で携わる方を応援するために、平成二三年度から開始された「社会福祉士ささえあい制度」。皆様にご理解いただき、ご協力いただいた結果を御報告いたします。

一．ささえあい制度への御協力額  
平成二四年二月から三月末までの短期間にも関わらず、負担金を七〇件(1,600,000円)、寄付金を二二件(308,000円)納めていただきました。負担金と寄付金を併せて納付いただいた方も多くいらつしやいます。

**有り難うございました！**

なお、四月に入ってから御納付いただいておりますので、今年度の御納付額は来年度配分の原資として活用いたします。

二．第一次配分額の御報告  
委員会単位で取り纏め、配分委員会において下図のとおり第一次配分案を決定し、理事会にて承認されました。

残額については年内に第二次配分を実施いたします。

三．その他  
負担金を納めていただいた方は、確定申告の際に経費として申請できる見込みです。

詳しくは、納めていただいた方宛てにお礼状と併せ記入例をお送りする予定です。

今年度も、ささえあい制度にご協力をお願いします。詳しくは、年明けにご案内と納付用紙をお送りいたしますのでご確認ください。

**皆様、本当に有り難うございました！**

社会福祉士ささえあい制度 平成24年度 第一次配分額

	配分額	備 考
総合相談委員会	78,000	虐待対応専門職チームスタッフについて
研修啓発委員会	102,000	各種研修スタッフについて
ばあとなあ千葉	550,000	後見人等報酬の無い事例の内、希望者について
独立型委員会	102,000	ホームレス支援(夜間巡回)参加者について
計	832,000	



# 私の一押し②

## 三たて二八蕎麦

# まごころ庵



ゆでたて

打ちたて

挽きたて

まごころ込めて、おもてなし。

『まごころ庵』は成田市にある多機能型事業所『ビーアンビシャス』が運営する本格派手打ち蕎麦店。障害者が働く場として平成十五年十一月にオープンしました。

そばの実を北海道から仕入れ、製粉、そば打ちに至るまでの工程すべてを「自分たちの手で」というこだわり！さらに驚きなのは、山小屋風の建物もスタッフの手作りという徹底ぶりです。私がいちいちスベシャルセットは、ざる蕎麦とかきあげ、小鉢、さらにデザートとドリンクまで付いてなんと一、二〇〇円。細打ちでしっかりとしたコシのお蕎麦に、おなかいっぱい大満足でした。休日の優雅なランチにぴったり。女子会などでも是非★(松本) メニュー各種有五〇〇円



スタッフ一同「まごころ込めておもてなし」の心を大切に日々努力しています。多くの方にまごころ庵のことを知っていただけたら幸いです。

社会福祉法人まごころ多機能型事業所

ビーアンビシャス

まごころ庵 一同

### ◆営業日

水曜日～日曜日  
(祝祭日を除く)

### ◆営業時間

通常 11:30～14:00  
12月31日  
11:30～15:00



### ◆お問い合わせ

〒286-0045千葉県成田市並木町219-21

TEL 0476-24-2131

FAX 0476-24-2132

E-mail: [info@be-ambitious.com](mailto:info@be-ambitious.com)

Web: <http://www.be-ambitious.com>

会社での人事異動で千葉県内を転々と転勤されているとの事。その度に新しい職場、新しいご利用者、新しいご家族との一からの関係を築いていかなければならないのですから、Kさんの気苦労はいかばかりかとお察しします。実は私も転勤を繰り返しており、その度に全一から関係を築かなければなりません。Kさんはご家族にシヨート中のご様子や体調のご報告をしたが、親類一同集まる様なお知らせになってしまい担当ケアマネからは「家族に細かい報告は無用」と言われ、地域の違いで受け取り方がこんなに違うのかと悩んでおられます。

相手がどう受け取るか、どうわかってもらえるかは対人援助に関わる私達の永遠のテーマですね。私も初めてのご家族や関係事業所等とお話しするときは大変緊張します。新しい職場に新しい仲間、初出勤のときはお腹がグルグルします。相手に「話しをしていて会話のリズムが作れない。かみ合わない。言いにくいことが伝わっていないな」と焦ることも度々あります。

そんな時こんな風に考えるようにしています。「まずは相談してみよう！」職場の上司や先輩、仲間に相談してみてもいいか？「細かい報告は無用」と言われた担当ケアマネを良く知っているかも知れませんが、実は面倒見が良いケアマネで、「家族にマイナスを報告する前にケアマネに相談しておく」と家族のフォローしてくれるよ」とか「事前に相談しておく、ケアマネが家族の対応方法をアドバイスしてくれるよ」とか。

そして地域でのネットワークを広げてゆくことで「顔の見える関係」ができましょ。Kさんの大きな力になって下さいますよ。

### 先輩社会福祉士からのアドバイス

ニチケアセンター夏見台 グループホームほほえみ 管理者 渡邊 伸子

Kさん 二〇代 女性

シヨートステイの生活相談員をしております。地域に合わせた、声かけ連絡方法をどのように模索していけばよいか悩んでいます。

会社の人事異動で、千葉県内各地を転々と勤務しています。異動した先の地域で「ご家族様への働きかけを行なった結果、親戚一同集まる大騒ぎになったことや、体調のご報告を差し上げた際、担当ケアマネジャーより「家族に細かく報告はいらない」とお言葉を頂いてしまうようになりました。

同じ働きかけを行なっても、以前の勤務地域ではこの様な事は起りませんでした。地域が変わり、私自身の働きかけの方法も変えなくてはならないと実感しています。アドバイスを頂きますと嬉しいです。

御なやみ処 一休

**事務局便り**

日ごとに冬の気配が強まっていますね。皆様いかがお過ごしでしょうか。  
 さて、一般社団法人化に向けての臨時総会も終了し、認可に向けての申請が終了いたしました。また、この時期は研修会・講習会が多く、新人二名体制の事務局員では追いつかない部分を担当の方のみならず、受講者の方々にもご理解・ご協力いただき、深く感謝しております。  
 皆様のお心に甘えずぎてしまわぬ様、気を引き締めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

**\*\* 会員の皆様へお願い \*\***

姓、ご住所、お電話・FAX、勤務先が変更された場合は、日本社会福祉士会へ変更届の提出が必要です。入会申し込みをした頃とご変更がある場合は、お早めにお手続きをお願いいたします。

提出先：社団法人 日本社会福祉士会 事務局  
 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 カタオカビル 2階  
 TEL 03-3355-6541 FAX 03-3355-6543

※変更届は日本社会福祉士会ホームページの会員専用ページ「事務諸手続きについてのご案内」からダウンロード出来ます。お届けいただいた変更内容は月末にとりまとめ日本社会福祉士会から都道府県社会福祉士会へ連絡されます。

**\*\* 研修等・行事のお知らせ \*\***

平成 24 年 11 月 17 日 (土) 独立型社会福祉士 千葉実践研究会 (詳細はお問合せ下さい)  
 平成 24 年 11 月 19・20 日 (月火) 社会福祉士実習指導者講習会 ※申込みは終了しております。  
 平成 24 年 12 月 29 日 (土) ~平成 25 年 1 月 3 日 (木) 事務局冬期休暇  
 平成 25 年 3 月 9 日 (土) 共通基盤研修 (日程のみ確定・募集開始時期未定)

※その他研修等決定いたしましたらホームページに随時掲載致しますので、是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

**\*\* 新事務局員のご紹介 \*\***

6 月よりお世話になっております、小川知美と申します。今まで、福祉とは無縁の仕事をしておりましたので、専門用語や略語がわからず四苦八苦しています。しかし事務局におりますと、様々な思いや考えをお持ちの方とお会いでき、とても充実した毎日です。(年はとっています) 新人と言われていた間に少しでも社会福祉士会のことを学び、皆様へのお役に立てるよう精進いたしますのでどうぞよろしくお願い致します。

**ようこそ！千葉県社会福祉士会へ**

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
福世 絢子	船橋市		松本 好夫	流山市	流山市社会福祉協議会
島村 淳志	千葉市	千葉大学医学部付属病院	藤本 弓貴子	市川市	ケアプランいちかわ
高岩 和夫			中村 頼子	千葉市	
岸 みなみ	千葉市		本石 美香		
山影 こずえ	千葉市		加藤 浩幸	袖ヶ浦市	千葉県社会福祉事業団
正田 剛	千葉市	社会福祉法人新栄会	内野 隆夫	四街道市	えくほの朋居宅介護支援事業所
小野 友貴			大谷 美香	船橋市	
星崎 徹		千葉市社会福祉協議会	永井 明子	松戸市	デイサービスたんぼほの家
大越 将司	千葉市	山武みどり学園	倉片 将夫	白井市	NPO 法人すずらん
青木 亮	浦安市		土橋 靖子	四街道市	
濱内 源一	鎌ヶ谷市	東武塚田クリニックデイサービスセンター	淵田 秀美	船橋市	ワークアイ・船橋
高谷 史郎	流山市		五月女 直樹	富里市	ケアネット成田
島根 明			中山 信行	印西市	東京消防庁
杉山 浩志			鈴木 真理子	船橋市	
岡村 美智子			清水 昌美	船橋市	船橋市立葛飾小学校
中根 慎二	八千代市		和田 美智子		株式会社パールヘルツ
床井 祐介	市原市	第2クローバー学園	鎌倉 慶子	柏市	
服部 明	船橋市	服部社会福祉事務所	村形 ユ二	船橋市	セイワ習志野介護老人福祉施設
福島 正和	船橋市	葛飾区社会福祉協議会	亀山 浩	山武郡	五根の家
木間 慎二	市川市		岩田 宏美		清山荘在宅介護支援センター
古川 由布子	千葉市	千葉市桜木園			

※ 正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。(順不同・敬称省略)

**平成 24 年 9 月末現在の会員数**

**正会員 1,271名、 準会員 5名、 賛助会員 3名 合計 1,279名**